

令和3年度第1回徳島県GIGAスクール構想推進本部

次 第

日時 令和3年8月26日（木）
午前10時30分から正午まで
方法 Web会議（Zoom）

1 開会

2 開会挨拶

3 協議

- （1）令和3年度推進本部及び各部会の設置について
- （2）令和3年度GIGAスクール構想推進本部の取組について
- （3）各部会からの報告
- （4）その他

4 閉会挨拶

5 閉会

<配布資料一覧>

- ・次第，出席者名簿
- ・【資料1】徳島県GIGAスクール構想推進本部設置要綱・名簿
- ・【資料2】令和3年度GIGAスクール構想推進本部の取組について（案）
- ・【資料3】部会協議の実施概要
- ・【資料3別表】ICTスキル習得体系表（案）
- ・【資料4】小学校部会第1回推進本部報告資料
- ・【資料5】中学校部会第1回推進本部報告資料
- ・【資料6】高等学校学校部会第1回推進本部報告資料
- ・【資料7】特別支援学校学校部会第1回推進本部報告資料

令和3年度第1回徳島県GIGAスクール構想推進本部 出席者名簿

(敬称略)

所属及び役職	氏名	備考
徳島県教育委員会 教育長	榊 浩一	
徳島県市町村教育委員会連合会 会長 徳島市教育委員会 教育長職務代理者	松本 賢治 河村 誠一	欠席 代理出席
徳島県教育委員会 副教育長	臼杵 一浩	
徳島県小学校長会 会長	安田 哲也	
徳島県中学校長会 会長	杉本 恭介	
徳島県高等学校長協会 会長	儀宝 修	
徳島県高等学校長協会 特別支援教育部会 部会長	上野 清文	
徳島県教育委員会 教育次長（県立学校担当）	藤本 和史	
徳島県教育委員会 教育次長（小中学校担当）	藤田 完	
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	高崎 美穂	
徳島県教育委員会 教職員課 課長	今田 潤	
徳島県教育委員会 学校教育課 課長	木屋村 浩章	
徳島県教育委員会 グローバル・文化教育課 課長	向井 佳子	
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	田中 清章	
徳島県教育委員会 人権教育課 課長	森下 稲子	
徳島県教育委員会 人権教育課 いじめ問題等対策室 室長	高畑 聖	
徳島県教育委員会 体育学校安全課 課長	吉岡 直彦	
徳島県教育委員会 生涯学習課 課長	藤井 宏孝	
徳島県立総合教育センター 所長	古味 俊二	
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	新見 敏彦	
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 課長	上萩 琴美	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 課長	濱口 和弥	

事務局

徳島県立総合教育センターGIGAスクール推進課	班長 黒田 收 班長 橋本 史朗 班長 平田 義明
-------------------------	---------------------------------

資料 1

徳島県G I G Aスクール構想推進本部設置要綱

1 (趣旨)

徳島県G I G Aスクール構想では、義務教育段階から高等学校段階に至るすべての学年に1人1台端末を整備し、これまで培ってきた「授業改善」の上に、最先端のICTを取り入れ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、多様な子供たちの可能性を最大限引き出すことのできる、新時代に対応した資質・能力の育成を目指すため、「徳島県G I G Aスクール構想推進本部(以下、「推進本部」という。)」を設置し、組織的かつ効果的な推進を図る。

2 (推進事項)

- (1) 構想の実現に向けた進捗管理
- (2) 教職員の資質・能力の向上に向けた支援
- (3) 授業・学習における効果的な活用の支援
- (4) 学校・家庭を結ぶシームレスな学びの保障についての検討
- (5) その他、推進本部が必要と認める事項

3 (構成)

推進本部の構成は、次のとおりとする。ただし、本部長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めることができる。

本部長：徳島県教育委員会教育長

副本部長：徳島県市町村教育委員会連合会会長、徳島県教育委員会副教育長

本部員

◇関係団体

徳島県小学校長会会長、徳島県中学校長会会長、徳島県高等学校長協会会長、
徳島県高等学校長協会特別支援教育部会部会長

◎徳島県教育委員会事務局

教育次長(県立学校担当)、教育次長(小中学校担当)、
教育政策課長、教職員課長、学校教育課長、グローバル・文化教育課長、
特別支援教育課長、人権教育課長、いじめ問題等対策室長、体育学校安全課長、
生涯学習課長

○総合教育センター

所長、学校経営支援課長、教職員研修課長、G I G Aスクール推進課長

4 (部会)

推進本部は、必要に応じ、「徳島県G I G Aスクール構想」の実現に必要な作業を行う部会を設置することができる。部会の構成員は、教育委員会、県立学校、市町村立小中学校及び大学等の職員で本部長の指定する役職にある者とする。

5 (庶務)

推進本部の庶務は、関係各課等の協力を得て、総合教育センターG I G Aスクール推進課内において処理する。部会の庶務は部会長が命じる者が処理するものとする。

6 (その他)

前各項に定めるもののほか、推進本部及び部会の運営に関する事項その他必要な事項は、本部長が定める。

附則

この要綱は、令和2年7月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和2年12月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

徳島県G I G Aスクール構想推進本部設置要綱 新旧対照表

(新)	(旧)
<p>(趣旨) <u>徳島県G I G Aスクール構想では、義務教育段階から高等学校段階に至るすべての学年に1人1台端末を整備し、これまで培ってきた「授業改善」の上に、最先端のICTを取り入れ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、多様な子供たちの可能性を最大限引き出すことのできる、新時代に対応した資質・能力の育成を目指すため、「徳島県G I G Aスクール構想推進本部（以下、「推進本部」という。）」を設置し、組織的かつ効果的な推進を図る。</u></p> <p>2（推進事項） <u>(1) 構想の実現に向けた進捗管理</u> <u>(2) 教職員の資質・能力の向上に向けた支援</u> <u>(3) 授業・学習における効果的な活用の支援</u> <u>(4) 学校・家庭を結ぶシームレスな学びの保障についての検討</u> <u>(5) その他、推進本部が必要と認める事項</u></p> <p>附則 この要綱は、令和2年7月1日から施行する。</p> <p>附則 この要綱は、令和2年12月1日から施行する。</p> <p>附則 <u>この要綱は、令和3年4月1日から施行する。</u></p>	<p>1（趣旨） G I G Aスクール構想の実現に向け、徳島県においては、令和2年度中に義務教育段階から県立高校及び特別支援学校高等部に至るすべての学年に1人1台端末を整備することとしている。</p> <p>そこで、平時、有事を問わず、すべての児童生徒に一貫した学びの機会を保障するとともに個別最適化された教育を推進するため、「徳島県G I G Aスクール構想推進本部（以下、「推進本部」という。）」を設置する。</p> <p>2（推進事項） (1) 共通アプリケーション等の検討・導入 (2) 授業・学習方法の検討（研修計画も含む） (3) 危機管理対策（緊急時の授業方法検討、家庭の通信環境の確保対策）</p> <p>附則 この要綱は、令和2年7月1日から施行する。</p> <p>附則 この要綱は、令和2年12月1日から施行する。</p>

徳島県GIGAスクール構想推進本部 本部員名簿

所属及び役職	氏名	備考
徳島県教育委員会 教育長	榊 浩一	本部長
徳島県市町村教育委員会連合会 会長	松本 賢治	副本部長
徳島県教育委員会 副教育長	臼杵 一浩	副本部長
徳島県小学校長会 会長	安田 哲也	
徳島県中学校長会 会長	杉本 恭介	
徳島県高等学校長協会 会長	儀宝 修	
徳島県高等学校長協会 特別支援教育部会 部会長	上野 清文	
徳島県教育委員会 教育次長（県立学校担当）	藤本 和史	
徳島県教育委員会 教育次長（小中学校担当）	藤田 完	
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	高崎 美穂	
徳島県教育委員会 教職員課 課長	今田 潤	
徳島県教育委員会 学校教育課 課長	木屋村 浩章	
徳島県教育委員会 グローバル・文化教育課 課長	向井 佳子	
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	田中 清章	
徳島県教育委員会 人権教育課 課長	森下 稲子	
徳島県教育委員会 人権教育課 いじめ問題等対策室 室長	高畑 聖	
徳島県教育委員会 体育学校安全課 課長	吉岡 直彦	
徳島県教育委員会 生涯学習課 課長	藤井 宏孝	
徳島県立総合教育センター 所長	古味 俊二	
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	新見 敏彦	
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 課長	上萩 琴美	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 課長	濱口 和弥	

事務局

徳島県立総合教育センターGIGAスクール推進課	班長 黒田 收 班長 橋本 史朗 班長 平田 義明
-------------------------	---------------------------------

徳島県GIGAスクール構想推進本部 総務部会員名簿

所属及び役職	氏名	備考
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	高崎 美穂	◎
徳島県教育委員会 教育政策課 係長	久次米 旭	
徳島県教育委員会 教育政策課 主任	三崎 富生	○
徳島県教育委員会 学校教育課 主事	尾崎 文菜	
徳島県教育委員会 グローバル・文化教育課 主任主事	八幡 菜摘	
徳島県教育委員会 特別支援教育課 指導主事	大久保 秀昭	
徳島県教育委員会 生涯学習課 社会教育主事	榭井 知恵	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 主査兼係長	橋本 和也	
徳島県政策創造部 デジタルとくしま推進課 係長	中野 誠司	
公益財団法人 e-とくしま推進財団 事務局長	来島 貴実子	

◎・・・部会長 ○・・・部会庶務担当者

徳島県GIGAスクール構想推進本部 小学校部会員名簿

所属及び役職	氏名	備考
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 課長	上萩 琴美	◎
徳島県教育委員会 学校教育課 統括指導主事	阿部 敏和	
徳島県教育委員会 グローバル・文化教育課 指導主事	寺田 美喜	
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 指導主事	木村 麻紀子	
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 指導主事	野上真由美	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 指導主事	武知 将人	○
阿南市教育委員会 教育部 学校教育課長	村上 耕太郎	
徳島市福島小学校 教頭	榎本 孝裕	
小松島市南小松島小学校 校長	森田 充	
阿南市立桑野小学校 校長	熊山 剛	モデル校
佐那河内村立佐那河内小学校 教頭	佐古 晴輝	
上板町立高志小学校 校長	中川 斉史	モデル校

◎・・・部会長 ○・・・部会庶務担当者

徳島県GIGAスクール構想推進本部 中学校部会員名簿

所属及び役職	氏名	備考
徳島県教育委員会 学校教育課 課長	木屋村 浩章	◎
徳島県教育委員会 学校教育課 学力向上推進幹	齋藤 大輔	
徳島県教育委員会局 学校教育課 指導主事	土壁 直樹	
徳島県教育委員会 グローバル・文化教育課 指導主事	武知 一誠	
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 班長	谷 陽子	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 指導主事	友成 誠	○
徳島市教育研究所 所長	三木 崇生	
鳴門市鳴門第一中学校 教頭	幸路 義文	
美馬市立穴吹中学校 校長	濱田 雅子	モデル校
三好市立東祖谷小・中学校 校長	大畑 知	モデル校
石井町石井中学校 校長	吉浦 正純	

◎・・・部会長 ○・・・部会庶務担当者

徳島県GIGAスクール構想推進本部 高等学校部会員名簿

所属及び役職	氏名	備考
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	新見 敏彦	◎
徳島県教育委員会 学校教育課 統括指導主事	河野 豊司	
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 班長	牧野 浩章	
徳島県教育委員会 グローバル・文化教育課 指導主事	堀部 通子	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 班長	橋本 史朗	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 指導主事	矢野 義文	○
徳島県立城東高等学校 教頭	大野 真二	昨年度モデル校
徳島県立つるぎ高等学校 教頭	大西 正治	昨年度モデル校

◎・・・部会長 ○・・・部会庶務担当者

徳島県GIGAスクール構想推進本部 特別支援学校部会員名簿

所属及び役職	氏名	備考
徳島県教育委員会事務局 特別支援教育課 課長	田中 清章	◎
徳島県立総合教育センター 特別支援・相談課 班長	松本 美知代	○
徳島県立総合教育センター 特別支援・相談課 指導主事	樋口 直樹	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 指導主事	乾 和彦	
徳島県立板野支援学校 教諭	田上 佳美	
徳島県立国府支援学校 教諭	岡本 雅子	
徳島県立ひのみね支援学校 教頭	西 直子	昨年度モデル校

◎・・・部会長 ○・・・部会庶務担当者

徳島県GIGAスクール構想推進本部
不登校児童生徒の学びの支援検討部会員名簿

所属及び役職	氏 名	備 考
徳島県教育委員会 人権教育課 いじめ問題等対策室 室長	高畑 聖	◎
鳴門教育大学大学院 特命教授	阪根 健二	
徳島県教育委員会 学校教育課 統括指導主事	阿部 敏和	
徳島県教育委員会 学校教育課 統括指導主事	河野 豊司	
徳島県教育委員会 特別支援教育課 統括指導主事	中山 登	
徳島県教育委員会 体育学校安全課 指導主事	加賀谷 扶美世	
徳島県立総合教育センター 特別支援・相談課 班長	大西 かずき	○
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 班長	黒田 収	

◎・・・部会長 ○・・・部会庶務担当者

資料 2

令和3年度徳島県GIGAスクール構想推進本部の取組について（案）

1 将来を見据えた推進目標

Society5.0を見据えた資質・能力の育成

2 構成



3 本年度の取組

(1) 本年度の推進方針

発達段階に応じた積極的活用の推進

(2) 推進本部

- ① GIGAスクール構想を推進するための方針についての協議
- ② 各部会からの報告についての協議
- ③ 推進本部全体としての進捗状況の管理
- ④ 懸案事項への対策協議
- ⑤ 次年度の方針についての協議

(3) 部会

- ① 実態の把握及び課題への対策についての協議
- ② 部会の重点目標を決定及び推進
- ③ 部会の重点目標の達成状況の把握
- ④ 次年度支援策検討，部会の重点目標作成

4 スケジュール

(1) 推進本部

- 第1回 8月26日（木）
第2回 11月30日（火）予定
第3回 2月18日（金）予定

(2) 部会

推進本部開催までに開催し，協議内容を推進本部に報告

部会協議の実施概要

1 開催状況の概要

(1) 小学校部会

令和3年7月16日(金) 午前9時45分から午前11時15分まで

(2) 中学校部会

令和3年7月16日(金) 午前9時45分から午前11時15分まで

(3) 高等学校部会

令和3年7月27日(火) 午前10時から午前11時30分まで

(4) 特別支援学校部会

令和3年7月13日(木) 午後3時30分から午後4時30分まで

(5) 総務部会

令和3年7月29日(木) 午後3時から午後4時まで

(6) 不登校児童生徒学びの支援検討部会

令和3年7月26日(月) 午後1時30分から午後3時まで

2 ICTスキル習得体系表(別表)

3 重点目標

(1) 小学校部会

タブレットを日常的に活用した学びの推進

(2) 中学校部会

「主体的・対話的で深い学び」につながるタブレットを活用した授業改善
～「どんどん」「みんなで」タブレットを活用して「わかる・できる授業」の実践～

(3) 高等学校部会

タブレットの日常的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」
の一体的な充実を目指した、学校全体での組織的推進

(4) 特別支援学校部会

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの日常的な利活用の推進
～みんなで「I(いつも)C(ちょっと)T(たのしい)」活用を～

(5) 総務部会

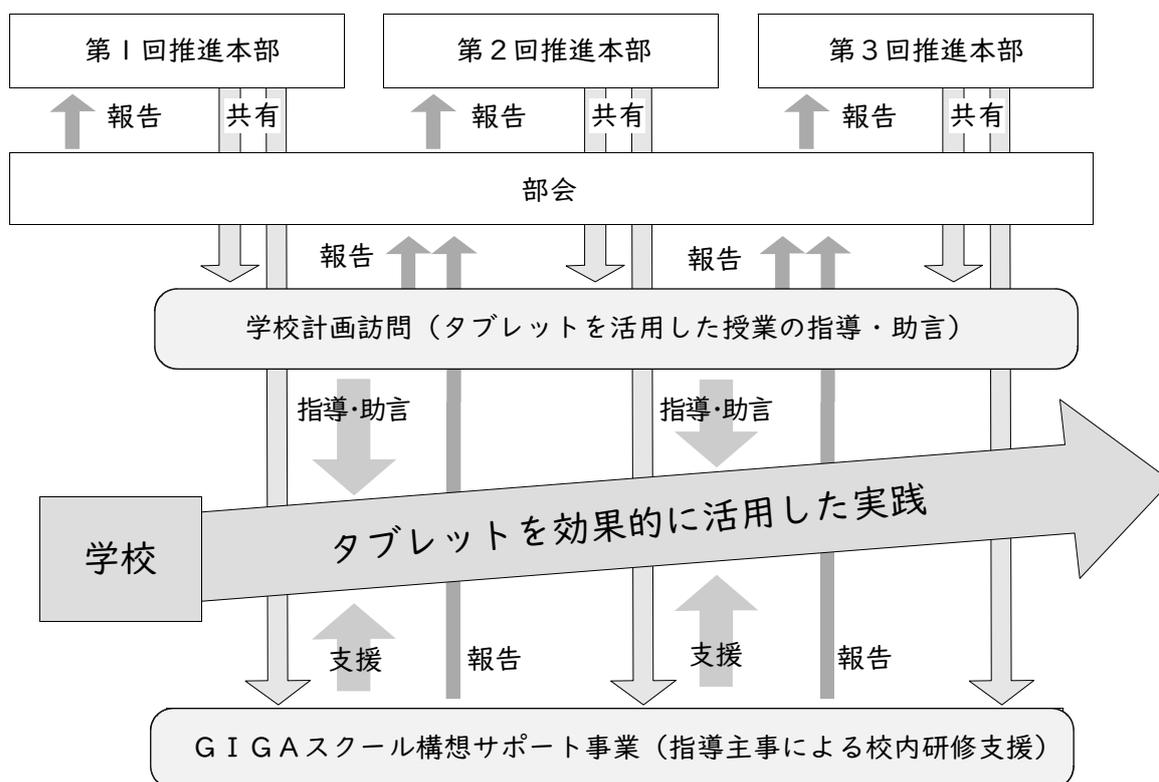
持続可能なGIGAスクール構想推進に向けた制度設計の提案

※不登校児童生徒学びの支援検討部会については、重点目標は設定していない。

4 今後のスケジュール

- ・ 学校計画訪問での指導・助言（9月～3月）
- ・ G I G Aスクールサポート事業での校内研修支援（9月～3月）
- ・ W e bサイトでの情報発信（9月～3月）
- ・ 部会での進捗状況報告・指導・支援内容の改善検討（10月）

学校計画訪問とG I G Aスクールサポート事業による推進



資料3 別表 ICTスキル習得体系表(案)

分類	小学校			中学校	高等学校	
	ステップ1	ステップ2	ステップ3			
基本的な操作等	アプリケーション操作	・教職員の指示やサポートを受ければ、学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習活動に応じて、アプリケーションの必要な機能を選択して操作することができる。	・アプリケーションの機能と特徴を理解し、場面や目的に応じて、必要な機能を使い分けることにより、効果的に活用することができる。また、様々な操作方法を自分で試行錯誤することにより習得し、作業効率を向上させることができる。	・目的に応じて、必要なアプリケーションを選択したり、複数のアプリケーションをその特質に応じて連携させたりして、効果的に作業を行うことができる。また、その際に授業支援アプリケーションを有効に活用し、他者との共同作業を行うことができる。
	カメラ機能活用	・カメラ機能を使って静止画や動画を撮影することができる。	・用途にあった撮影を行い、学習に活用することができる。	・静止画のサイズを変更したり、トリミングしたりするなど、必要に応じて加工することができる。	・静止画や動画について、利用する目的に応じて、構図やタイミングなどをあらかじめ構想し、適切なファイル形式、適切なファイルサイズを選択し、記録することができる。	・記録された静止画や動画のデータを、その目的に応じてより効果的に利用できるよう、必要なソフトウェアを用いて加工することができる。
	文字入力	・タッチペンや指で、色や太さなどを使い分けて文字を書くことができる。	・キーボードを使って漢字を含む文字を入力することができる。	・指示された時間内に、自分の考えや学習のまとめを正確にタイピング入力することができる。	・様々な学習場面で、必要とされる文字情報を、自ら吟味した言葉により、わかりやすく伝えるための工夫をしながら、必要な情報を正確に入力することができる。	・Webなどから得られる多様な資料をもとに論理的に考え、様々な観点から自分の意見や考えを、相手や目的に応じた方法でまとめ、効率を考えて入力することができる。
問題解決・探究における情報活用	分類整理・まとめる力	・写真やファイルを保存したり、過去に保存したものを呼び出したりすることができる。	・名前を付けてファイルを保存したりフォルダを項目ごとに分類したりして、データを整理することができる。	・学習のめあてに沿って、収集した資料や情報を取捨選択し、わかりやすくまとめることができる。	・課題解決に向けて構想するために、フローチャート等に表示し、最適化を図ることができる。	・階層構造を考えてフォルダを作成し、複数のファイルをわかりやすく整理し、管理することができる。・目的に応じて情報と情報技術を適切に活用し、モデル化やシミュレーションを通して問題に対する多様な解決策を模索できる。
	プレゼンテーション力	・ペイントアプリ(プログラミングアプリ)で描いた絵や撮影した写真を用いて発表することができる。	・図や写真を貼り付けた簡単なスライドを提示しながら発表することができる。	・自分の考えが相手に伝わるよう工夫しながら、プレゼンテーションをすることができる。	・表、グラフ、アニメーション等を組み合わせたスライドを作成したり、ユニバーサルデザインに配慮したスライドを作成したりするなど聞き手にわかりやすく伝えることができる。	・プレゼンテーションソフトを使い、自らの意見や研究内容を適切にまとめたスライドショーを作成したり、目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択・統合し、聞き手にわかりやすく伝えることができる。
	情報収集力	・教職員の指示やサポートを受けながら、必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を素早く検索、収集することができる。	・情報通信ネットワークからの効果的な情報の検索と検証の方法を適切に行うことができる。・情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善する手順を考えることができる。	・インターネットや各種ファイル内から、目的や必要に応じた情報を効果的に検索・収集し、その妥当性や信頼性を吟味できる。
	コミュニケーション力	・オンラインで、画面の相手とコミュニケーションすることができる。	・オンラインで話し合い活動に参加し、相手の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。	・画面共有機能で資料を提示したり、ホワイトボード機能で考えをまとめたりして、相手にわかりやすく伝えることができる。	・授業支援アプリやWeb会議システムの画面共有機能を使い、話し合い・発表・作品制作等の協働作業を行うことができる。	・MetaMoJiClassRoom, Classi, Zoomの共有機能を使い、意図する活動を実現するための手順を意識して、話し合い・発表・課題研究等の協働作業を行うことができる。
情報モラル・情報セキュリティ	情報社会の倫理	・約束やきまりを守ってコンピュータを使うことができる。	・相手への影響を考えてコンピュータを使うことができる。	・他人や社会への影響を考えてコンピュータを使うことができる。	・ネットワークを利用する上での責任について考え、ルールや法律、違法な行為のもたらす問題の重要性を理解し、対面での関係と同様に、他者を尊重し、適切に行動することができる。	・公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、情報モラルを含む情報の妥当性や信頼性を踏まえた上で公正な判断を行い、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。
	情報に関する権利	・人の考えや作品を大切にすることができる。	・自他の情報を大切にすることができる。	・情報にも権利があることを知り、尊重することができる。	・情報に関する自分や他人の権利があることを踏まえ、データの処理ができる。・著作権や知的財産権などの尊重が重要であることを理解し、適切に行動することができる。	・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて理解し、考察することができる。
	危険回避	・コンピュータは、大人と一緒に使い、危険を避けることができる。	・危険な目に遭ったときは、大人に知らせる適切な対応することができる。	・危険を予測し、避けるように心がけることができる。	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を理解した上で、安全に行動することができる。	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を科学的に理解した上で、それらについて適切に行動できるとともに、自ら情報発信し、他者への啓発を行うことができる。
	情報の取り扱い	・知らない人に個人情報を話すことが危険なことだと理解して行動できる。	・情報には誤ったものがあることを理解することができる。	・情報の正確さを判断する方法を知り、確認できる。	・情報が社会に果たしている役割や及ぼしている影響について理解し、適切に利用することができる。	・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解し、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現された情報を評価・改善することができる。
	健康面への配慮	・決められた利用時間を守ることができる。	・利用時間を決め、守ることができる。	・健康を害する行動を自制することができる。	・自分の健康面に留意して、情報メディアの利用による健康を害する行動を自制することができる。	・情報機器の活用について、自らが健康に留意した学習環境や望ましい習慣についてその意義を理解し、自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。
	情報セキュリティ	・パスワードの大切さを理解し、扱うことができる。	・ダウンロードは危険を伴うことがあることを理解し、コンピュータを使うことができる。	・個人情報流出の原因やウイルスの簡単な知識を知り、注意しながらコンピュータを使うことができる。	・パスワードによる暗号化やバックアップ等、生活の中で必要となる情報セキュリティの重要性を理解して、行動することができる。	・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解した上で、情報セキュリティを確保する方法について考えることができる。

小学校部会第1回推進本部報告資料

1 開催状況の概要

- (1) 日時 令和3年7月16日(金) 午前9時45分から午前11時15分まで
 (2) 場所 徳島県立総合教育センター 3階 研修室1
 (3) 出席者 小学校部会員11名(欠席者1名)

2 小学校ICTスキル習得体系表(案)

分類	ステップ1	ステップ2	ステップ3	
基本的な操作等	アプリケーション操作	・教職員の指示やサポートを受ければ、学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習用アプリケーションの基本的な操作ができる。	・学習活動に応じて、アプリケーションの必要な機能を選択して操作することができる。
	カメラ機能活用	・カメラ機能を使って静止画や動画を撮影することができる。	・用途にあった撮影を行い、学習に活用することができる。	・静止画のサイズを変更したり、トリミングしたりするなど、必要に応じて加工することができる。
	文字入力	・タッチペンや指で、色や太さなどを使い分けて文字を書くことができる。	・キーボードを使って漢字を含む文字を入力することができる。	・指示された時間内に、自分の考えや学習のまとめを正確にタイピング入力することができる。
問題解決・探究における情報活用	分類整理・まとめる力	・写真やファイルを保存したり、過去に保存したものを呼び出したりすることができる。	・名前を付けてファイルを保存したりフォルダを項目ごとに分類したりして、データを整理することができる。	・学習のめあてに沿って、収集した資料や情報を取捨選択し、わかりやすくまとめることができる。
	プレゼンテーション力	・ペイントアプリ(プログラミングアプリ)で描いた絵や撮影した写真を用いて発表することができる。	・図や写真を貼り付けた簡単なスライドを提示しながら発表することができる。	・自分の考えが相手に伝わるよう工夫しながら、プレゼンテーションをすることができる。

	情報収集力	・教職員の指示やサポートを受けながら、必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を集めたり調べたりすることができる。	・課題解決に必要な情報を素早く検索、収集することができる。
	コミュニケーション力	・オンラインで、画面上の相手とコミュニケーションすることができる。	・オンラインで話し合い活動に参加し、相手の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。	・画面共有機能で資料を提示したり、ホワイトボード機能で考えをまとめたりして、相手にわかりやすく伝えることができる。
情報モラル・情報セキュリティ	情報社会の倫理	・約束やきまりを守ってコンピュータを使うことができる。	・相手への影響を考慮してコンピュータを使うことができる。	・他人や社会への影響を考慮してコンピュータを使うことができる。
	情報に関する権利	・人の考えや作品を大切にすることができる。	・自他の情報を大切にすることができる。	・情報にも権利があることを知り、尊重することができる。
	危険回避	・コンピュータは、大人と一緒に使い、危険を避けることができる。	・危険な目に遭ったときは、大人に知らせて適切に対応することができる。	・危険を予測し、避けるように心がけることができる。
	情報の取り扱い	・知らない人に個人情報話すことが危険なことだと理解して行動できる。	・情報には誤ったものがあることを理解することができる。	・情報の正確さを判断する方法を知り、確認できる。
	健康面への配慮	・決められた利用時間を守るすることができる。	・利用時間を決め、守ることができる。	・健康を害する行動を自制することができる。
	情報セキュリティ	・パスワードの大切さを理解し、扱うことができる。	・ダウンロードは危険を伴うことを理解し、コンピュータを使うことができる。	・個人情報が流出する原因やウイルスの簡単な知識を知り、注意しながらコンピュータを使うことができる。

※令和3年度ICTスキル習得における指導体系表は、3段階（ステップ1～ステップ3）で構成している（使い方・ルールは除く。）。ステップ1は低学年、ステップ2は中学年、ステップ3は高学年終了段階をイメージして目標を設定している。

3 重点目標

タブレットを日常的に活用した学びの推進

4 教職員の取組例

<p>基本的な操作等</p>	<p>(アプリケーション操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機で手元の操作を示したり、大型モニターに教師用タブレットの画面を投影したりしながら機能を説明する。 ・各教科学習等において授業支援アプリケーション機能（資料やアンケートの配布・回収、画面の共有、協働作業等）を活用した授業づくりを行う。 ・休み時間にプログラミングアプリ、ドリル教材などの利用を許可し、タブレット操作に慣れ親しむ時間を設ける。  <p>(写真①「石井小学校1年」)</p>
	<p>(カメラ機能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察記録（理科）、絵や工作作品（図工）、自分や友だちの動き（体育）などを記録させる。 ・自分で撮影した写真や動画を取り込み、並び替え、回転、サイズ変更などしながらワークシートを完成させる。 ・どのような写真が必要なのか考え、目的にあった撮影を意識させる。  <p>(写真②「桑野小学校1年」)</p>
	<p>(文字入力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスワード入力やタイピング入力をサポートする。 <p>(例) キーボードに補助シールを貼る。</p>   <p>(写真③「高志小学校低学年」) (写真④「高志小学校低学年」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の活動や昼休みなどにタイピングアプリの使用を許可するなどして、タイピング練習する時間を設ける。 ・中・高学年は、授業のまとめや感想などをタイピング入力させる機会を設ける。
<p>問題解決・探究における情報活用</p>	<p>(分類整理・構成力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや学習内容がよくわかるレイアウトになるように、必要な資料と情報を取捨選択しながらデジタルノートにまとめさせる。 ・写真と紙のフォルダを使って具体的操作をさせることで、フォルダの中に写真（ファイル）が入っていることを概念として捉えさせるとともに、分類の練習をさせる。  <p>(写真⑤「海部小学校5年」)</p>

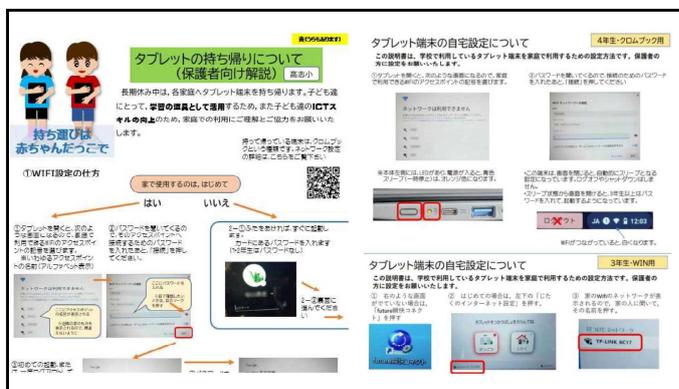
	<p>(プレゼンテーション力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年では、プログラミングアプリを表現ツールとして発表させる。(例：お気に入り場面を再現しながらおすすめの本を紹介する。) ・画面キャプチャーやスクリーンショット機能でコピー＆ペーストした簡単なプレゼンテーション資料を作成して発表させる。  <p>(写真⑥「北島南小学校1年」)</p>
	<p>(情報収集力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の関連キーワードを組み合わせることで、目的のWebページを検索し、必要な情報を収集しやすくなることに気付かせる。 ・インターネット上には、悪意のあるサイトや事実とは異なる書き込みがあることを理解させるなど、メディアリテラシーを高める。
	<p>(コミュニケーション力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで、ゲストティーチャーの話をしっかり聞き、質疑応答を通してコミュニケーション力を育成する。 ・オンラインで、他の学級、学年、学校の児童と協働学習したり異学年交流を行ったりする活動を設ける。  <p>(写真⑦「東祖谷小学校2年」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで、プレゼンテーション資料や思考ツールなどを共有して、自分の意見を伝えさせる。  <p>(写真⑧「高志小学校4年」)</p>
<p>情報モラル・情報セキュリティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各校で作成されている情報活用能力年間指導計画に沿い、情報モラルやセキュリティについての指導を行う。 ・徳島県情報モラル教育デジタルコンテンツ(小学校版)を活用した指導を実施する。 <p>「徳島県立総合教育センターホームページ→GIGAスクール推進→情報モラル教育(全24話公開)」</p> <p>(例) 情報に関する権利 (例) 健康面への配慮</p>   <p>(写真⑨⑩「徳島県情報モラル教育デジタルコンテンツ」)</p>

5 学校の取組例

- ・タブレット活用（学校での利用，自宅での利用）における全学年共通ルールの設定，見直しをする。
- ・共有ファイルに機器の操作や授業での活用事例について書き込み，情報共有できるようにする。
- ・職員研修（オンライン），職員会，徳島型メンター制度の勉強会などで，ICT活用に関する知識や技能を高められるようにする。
- ・アプリケーション等の使い方に関する説明書を作成する。
- ・家庭へのタブレット持ち帰りを想定した接続テストを実施する。
- ・家庭へのタブレット持ち帰りについて，文書を配布する。



(写真①「高志小学校の職員会の様子」)



(写真③「高志小学校タブレットの持ち帰りについて (保護者向け文書)」)



写真②「海部小学校の操作説明書」)

6 今後のスケジュール

- ・学校計画訪問での指導・助言（9月～3月）
- ・GIGAスクールサポート事業での校内研修支援（9月～3月）
- ・Webサイトでの情報発信（9月～3月）
- ・部会での進捗状況報告・指導・支援内容の改善検討（10月）

中学校部会第1回推進本部報告資料

1 開催状況の概要

- (1) 日時 令和3年7月16日(金) 午前9時45分から午前11時15分まで
 (2) 場所 徳島県立総合教育センター 3階 研修室2
 (3) 出席者 中学校部会員11名 全員出席

2 中学校ICTスキル習得体系表(案)

分類		生徒の目指すべき姿
基本的な操作等	アプリケーション操作	・アプリケーションの機能と特徴を理解し、場面や目的に応じて、必要な機能を使い分けることにより、効果的に活用することができる。また、様々な操作方法を自分で試行錯誤することにより習得し、作業効率を向上させることができる。
	カメラ機能活用	・静止画や動画について、利用する目的に応じて、構図やタイミングなどをあらかじめ構想し、適切なファイル形式、適切なファイルサイズを選択し、記録することができる。
	文字入力	・様々な学習場面で、必要とされる文字情報を、自ら吟味した言葉により、わかりやすく伝えるための工夫をしながら、正確に入力することができる。
問題解決・探究における情報活用	分類整理・まとめる力	・課題解決に向けて構想するために、フローチャート等に表し、最適化を図ることができる。
	プレゼンテーション力	・表、グラフ、アニメーション等を組み合わせたスライドを作成したり、ユニバーサルデザインに配慮したスライドを作成したりするなど聞き手にわかりやすく伝えることができる。
	情報収集力	・情報通信ネットワークからの効果的な情報の検索と検証の方法を適切に行うことができる。 ・情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善する手順を考えることができる。
	コミュニケーション力	・クラウドや画面の共有機能を使い、話し合い・発表・作品制作等の協働作業を行うことができる。
情報モラル・情報セキュリティ	情報社会の倫理	・ネットワークを利用する上での責任について考え、ルールや法律、違法な行為のもたらす問題の重要性を理解し、対面での関係と同様に、他者を尊重し、適切に行動することができる。
	情報に関する権利	・情報に関する自分や他人の権利があることを踏まえ、データの処理ができる。 ・著作権や知的財産権などの尊重が重要であることを理解し、適切に行動することができる。

危険回避	・ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を理解した上で、安全に行動することができる。
情報の取り扱い	・情報が社会に果たしている役割や及ぼしている影響について理解し、適切に利用することができる。
健康面への配慮	・自分の健康面に留意して、情報メディアの利用による健康を害する行動を自制することができる。
情報セキュリティ	・パスワードによる暗号化やバックアップ等、生活の中で必要となる情報セキュリティの重要性を理解して、行動することができる。

3 重点目標

「主体的・対話的で深い学び」につながるタブレットを活用した授業改善
 ～「どんどん」「みんなて」タブレットを活用して「わかる・できる授業」の実践～

4 教職員の取組例

分類	取組例
アプリケーション操作	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機で手元の操作を示したり、大型モニターに教師タブレット画面を投影したりしながら機能を説明する。 ・授業支援アプリケーションの教師用端末画面に、生徒が学習に取り組んでいる画面を表示し、学習の進捗状況や取組状況を把握しやすくして、効率的に生徒の実態を把握する。 ・各教科学習等において、授業支援アプリケーションの機能（資料やアンケートの配付・回収、画面の共有、協働作業等）を活用した授業づくりを行う。
カメラ機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに最適な大きさやファイルサイズを示し、加工の操作を指導する。 ・自分で撮影した写真や動画を取り込み、並び替え、回転、サイズ変更などしながらワークシートを完成させる。 ・どのような写真・動画が必要なのかを考え、目的にあった撮影の機会を設ける。 ・カメラ機能を使って、学習のまとめ等を動画で撮影し、クラウド上で共有し、家庭などで視聴できるように指導する。
文字入力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめや感想などをタイピング入力させる機会を設け、キーボードに慣れさせる。 ・家庭へ持ち帰ったタブレットを利用して、生活の記録や家庭学習の状況などを記録させることで、タイピングの速度を向上させる。
分類整理・まとめる力	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程の中で、どのような情報が必要かをグループで話し合わせ、よりよい改善策を考えさせる。 ・共有機能の中で、デジタル付箋などを使って、様々な情報を効率的に収集し、整理させる。また、担当するスライドをグループで話し合い、学級全体でスライドを共有し、課題解決や新しい気付きなどにつなげる。

<p>プレゼンテーション力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけのプレゼンテーションスライドを作成し、その過程の中でじっくり考えた後、共有のフォルダに投稿し、全員で共有し、考えを広げる。 制作したものを発表し合い、目的を達成することができたか自己評価・相互評価できるような機会をもたせるようにする。
<p>情報収集力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 複数の関連キーワードを組み合わせることで、目的のWebページを検索し、必要な情報を収集しやすくなることに気付かせる。 複数のWebサイトの情報を比較させ、信憑性のある情報を選択するように指導する。 徳島県GIGAスクール構想のWebページに掲載されている「GIGA・とくしま学び通信」で紹介されている、各教科でのICT活用の事例を参考にして、授業を実践する。 「家庭学習応援動画まなびのサポート」、「学習ガイド関係資料」等を生徒に紹介し、持ち帰った端末での家庭学習に利用させる。 <div data-bbox="906 555 1390 862" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">GIGA・とくしま学び通信</p> <p style="font-size: small;">GIGA・とくしま学び通信</p> <p style="font-size: x-small;">学校において、令和の時代の新しい教育スタイルとして、一人一台タブレット端末を活用した学習が本格的にスタートします。徳島県教育委員会では、「徳島県GIGAスクール構想」に寄り、多様な子供たち一人一人に個別最適化された教育ICT環境の実現を目指した取組を進めています。</p> <p style="font-size: x-small;">その一つとして、4月より新たに「GIGA・徳島まなび通信」を作成しました。教職員の研修を対象に、ICTを活用した授業づくりのヒントや具体例等を定期的に配信いたします。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり等に、ぜひ役立てていただければと思います。</p> <p style="font-size: x-small;">4月号 5月号 6月号 7月号</p> <p style="text-align: center;">GIGA・とくしま学び通信</p> </div>
<p>コミュニケーション力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業支援アプリケーションやWeb会議システムのホワイトボード機能を使って、与えた課題に対する自分の考えをまとめさせ、それをもとに発表をさせる。 オンラインで、ゲストティーチャーの話しをしっかりと聞き、質疑応答を通してコミュニケーション力を養う。 Web会議システムを用いて、他校の生徒との交流授業を行い、自校の特色ある取組等を紹介させることで、表現力の向上を図る。
<p>情報モラル・情報セキュリティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> タブレットの利用のルールを話し合わせ、決まったことを掲示したり、デスクトップ画面に設定したりする。 著作権を巡る様々な事例を動画や関連するWebサイトから調べ、話し合い、全員に共有し、考えを深めさせる。 チャット機能等を利用し、生徒同士が情報のやりとりを体験させる。その上で情報を発信するために大切なことを、デジタル付箋などを使って話し合わせ、学級全体で共有する。 帰りの学活等で、定期的に自分のIDでログインし、健康状態を記録させ、担任・養護教諭などが記録をグラフ化し、コメントを返すことで、生徒の健康をチェックする。 <p>「徳島県立総合教育センターホームページ→GIGAスクール推進→情報モラル教育（全24話公開）」</p> <p>(例) インターネットの情報 (例) SNSへの注意喚起</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="347 1787 655 2033" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;"> <p style="font-size: x-small;">情報モラル教育</p>  <p style="font-size: small;">第1話 インターネットの 情報は正しいの？</p> </div> <div data-bbox="906 1787 1214 2033" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;"> <p style="font-size: x-small;">情報モラル教育</p>  <p style="font-size: small;">第14話 SNS依存に ならないために</p> </div> </div>

5 学校の取組例

- ・ I C T の得意・不得意関係なく少人数で集まり，週一程度の情報交換会を開き，短時間で活動事例を紹介し，今後の計画について共有する。
- ・「〇月までに全員が教材を作成し I C T 端末を活用した授業を展開する」といった目標を設定し，それぞれの進捗状況をお互いで共有し，全体としてのスキルアップを図りながら，実践に結びつける。
- ・実践の良かった点や改善点を教員間で共有し，得られた情報はクラウドで共有したり，各学年でミニ研修をしたりするなどして情報を共有する。
- ・タブレットを活用する授業の予定を全教員が見ることのできるディスプレイに表示し，教員間でスケジュールを共有する。
- ・ W e b 会議システムを活用し，会議資料を画面共有で提示することで，資料印刷等を簡略化して職員会議の効率化を図り，研修時間を確保する。

6 今後のスケジュール

- ・ 学校計画訪問での指導・助言（9月～3月）
- ・ G I G A スクールサポート事業での校内研修支援（9月～3月）
- ・ W e b サイトでの情報発信（9月～3月）
- ・ 部会での進捗状況報告・指導・支援内容の改善検討（10月）

高等学校部会第1回推進本部報告資料

1 開催状況の概要

- (1) 日時 令和3年7月27日(火) 午前10時から午前11時30分まで
 (2) 場所 Zoomによるオンライン会議
 (3) 出席者 高等学校部会員8名 全員出席

2 高等学校ICTスキル習得体系表(案)

分類		生徒の目指すべき姿
基本的な 操作等	アプリケーション操作	・目的に応じて、必要なアプリケーションを選択したり、複数のアプリケーションをその特質に応じて連携させたりして、効果的に作業を行うことができる。また、その際に授業支援アプリケーションを有効に活用し、他者との共同作業を行うことができる。
	カメラ機能活用	・記録された静止画や動画のデータを、その目的に応じてより効果的に利用できるよう、必要なソフトウェアを用いて加工することができる。
	文字入力	・Webなどから得られる多様な資料をもとに論理的に考え、様々な観点から自分の意見や考えを、相手や目的に応じた方法でまとめ、効率を考えて入力することができる。
問題解決 ・探究に おける情 報活用	分類整理・ まとめる力	・階層構造を考えてフォルダを作成し、複数のファイルをわかりやすく整理し、管理することができる。 ・目的に応じて情報と情報技術を適切に活用し、モデル化やシミュレーションを通して問題に対する多様な解決策を模索できる。
	プレゼンテ ーションカ ン	・プレゼンテーションソフトを使い、自らの意見や研究内容を適切にまとめたスライドショーを作成したり、目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択・統合し、聞き手にわかりやすく伝えることができる。
	情報収集力	・インターネットや各種ファイル内から、目的や必要に応じた情報を効果的に検索・収集し、その妥当性や信頼性を吟味できる。
	コミュニケ ーションカ ン	・クラウドや画面の共有機能を使い、意図する活動を実現するための手順を意識して、話し合い・発表・課題研究等の協働作業を行うことができる。

情報モラル・情報セキュリティ	情報社会の倫理	・ 公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、情報モラルを含む情報の妥当性や信頼性を踏まえた上で公正な判断を行い、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。
	情報に関する権利	・ 情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて理解し、考察することができる。
	危険回避	・ ウイルス、不正アクセス、詐欺等の犯罪など、インターネットの危険性を科学的に理解した上で、それらについて適切に行動できるとともに、自ら情報発信し、他者への啓発を行うことができる。
	情報の取扱い	・ メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解し、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現された情報を評価・改善することができる。
	健康面への配慮	・ 情報機器の活用について、自らが健康に留意した学習環境や望ましい習慣についてその意義を理解し、自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。
	安心・安全な利用	・ 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解した上で、情報セキュリティを確保する方法について考えることができる。

3 重点目標

タブレットの日常的な活用による、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した、学校全体での組織的推進

4 教職員の取組例

分類	取組例
<p>アプリケーション操作</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板や大型モニターに教師用タブレットを利用し、動画や写真、図表を投影しながら視覚的に理解しやすく、興味・関心を抱かせる授業を行う。 MetaMoJiClassRoomの機能（資料やアンケートの配付・回収、画面の共有、協働作業等）を活用した授業づくりを行う。 MetaMoJiClassRoomのモニタリング機能を利用し、教師用タブレットで、生徒が学習に取り組んでいる様子をモニタリングし、学習の進捗状況や取組状況を把握しやすくして、効率的に生徒の実態を把握する。 家庭へ持ち帰ったタブレットで、教育クラウドサービスClassiのドリル教材などを積極的に活用し、タブレット操作に習熟させるとともに、学力向上に努める。 <div data-bbox="995 450 1401 658" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1059 689 1353 719">MetaMoJi ClassRoomの画面</p>
<p>カメラ機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調査活動や実験結果などを写真や動画に記録し、最適な方法で保存し、ワークシートを完成させる。また、その結果を生徒全員で共有する。 朗読や英会話、楽器の演奏や歌唱、運動の様子などを定期的に動画で撮影し、確認しながら次の課題を見つける。 カメラ機能を使って、学習のまとめ等を動画で編集し、クラウド上で共有し、各種発表会やオンライン会議などで発表する。
<p>文字入力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種課題を、家庭へ持ち帰ったタブレットを用いてオンラインで提出させる等の工夫により、タイピングによる文字入力を日常のものとする。 総合的な探究の時間の研究レポートや発表用ポスター、発表用スライドをワープロソフト、プレゼンテーションソフトを用いて作成することで、効率的な文字入力を体得できるようにする。 教育クラウドサービスClassiの学習記録機能を利用し、持ち帰った端末を用いて、毎日の学習状況を記録させる。履歴が蓄積してくことで、生徒は自身の進捗を調整することができ、教師もその状況を把握することができる。 <div data-bbox="1059 1093 1401 1464" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1155 1503 1305 1532">Classiの画面</p>
<p>分類整理・まとめる力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや学習内容がよくわかるレイアウトになるように、必要な資料と情報を取捨選択しながらデジタルノートにまとめさせる。 教育クラウドサービス等を利用し、資料の保存等も教師が確認できるようにしておく。 各種情報を分析し、モデル化、シミュレーションを行う手立てを示し、問題に対する新しい解決策を導く手順を考えさせる。
<p>プレゼンテーション力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種発表会などの優秀なプレゼンテーションを見せることで、自分のスライドとの違いや話し方の比較を行うことで改善点を把握させる。 自分のプレゼンテーションを動画で記録し、自身の発表を振り返ることで、相手に効果的に伝わっているかを考えさせる。

<p>情報収集力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の関連キーワードを組み合わせることで、目的のWebページを検索し、必要な情報を収集しやすくなることに気付かせる。 ・複数のWebサイトの情報を比較させ、情報の発信源を知ることや、信憑性のある情報を選択することを指導する。 ・徳島県GIGAスクール構想のWebページに掲載されている「GIGA・とくしま学び通信」で紹介されている、各教科でのICT活用の事例を参考にして、授業を実践する。 ・「家庭学習応援動画まなびのサポート」等を生徒に紹介し、家庭学習に利用させる。 <div data-bbox="893 302 1388 616" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">GIGA・とくしま学び通信</p> <p>GIGA・とくしま学び通信</p> <p>学校において、令和の時代の新しい教育スタイルとして、一人一台タブレット端末を活用した学習が本格的にスタートします。徳島県教育委員会では、「徳島GIGAスクール構想」に向け、多様な子供たち一人一人に個別最適化された教育ICT環境の実現を目指した取組を進めています。</p> <p>その一つとして、4月より新たに「GIGA・徳島まなび通信」を作成しました。教職員を対象に、ICTを活用した授業づくりのヒントや具体例等を定期的に配信いたします。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり等に、ぜひ活用していただければと思います。</p> <p>4月号 5月号 6月号 7月号</p> <p style="text-align: center;">GIGA・とくしま学び通信</p> </div>
<p>コミュニケーション力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ZoomなどのWeb会議システムを利用し、オンライン会議等へ積極的に参加させ、発表の傾聴や、質疑応答の在り方を学ばせることで、社会で役立つコミュニケーション力を養う。 ・ZoomなどのWeb会議システムを利用し、オンラインによる海外との交流を行い、これからの国際交流の在り方を考えさせる。 ・プレゼンテーション資料や思考ツールなどを共有して、自分の意見を伝えられるようにする。 ・MetaMojiClassRoomのグループ学習シートを利用して、様々な情報を効率的に収集し、整理させる。また、担当する役割をはっきりと決めさせ、その役割を果たすことがグループでの課題解決に大切であることを学ばせる。 ・教育クラウドサービスのClassiの校内グループ機能で、与えられた学習課題に対して協働で問題解決を行う中で、オンラインでの議論や考え方を伝えるための工夫について学ばせる。 <div data-bbox="925 1030 1388 1265" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">Classiの画面</p>  </div>
<p>情報モラル・情報セキュリティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で通用する情報モラルやセキュリティについての指導を行う。 ・年度末には、次年度に向けた情報モラル教育年間指導計画の見直しをする。 ・徳島県版モラル教育デジタルコンテンツ（中・高生版）を活用した指導を実施する。 <p>「徳島県立総合教育センターホームページ→GIGAスクール推進→情報モラル教育（全24話公開）」</p> <p>(例) インターネットの情報 (例) SNSへの注意喚起</p> <div data-bbox="399 1612 702 1859" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; text-align: center;">  <p>第1話 インターネットの 情報は正しいの？</p> </div> <div data-bbox="909 1612 1212 1859" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; text-align: center;">  <p>第14話 SNS依存に ならないために</p> </div>

5 学校の取組例

- ・総合的な探究の時間等の発表会において、オンライン会議システムを利用し、複数の学校が参加して意見交換を行う。また県内外の大学教員等にも参加を依頼し、即時に指導助言をしてもらう。
- ・教育クラウドサービスClassiを利用して、学習時間やWebドリルの回答数のデータの調査を行い、全校生徒で統計を取り、担任が個人面談等で活用するなどして学習意欲の向上を目指す。
- ・課題研究などで、環境変化や農作地の土壌の状態をセンサーを用いてデータ化し、分析することで地方創生に役立つ研究を行う。

6 今後のスケジュール

- ・学校計画訪問での指導・助言（9月～3月）
- ・GIGAスクールサポート事業での校内研修支援（9月～3月）
- ・Webサイトでの情報発信（9月～3月）
- ・部会での進捗状況報告・指導・支援内容の改善検討（10月）

資料 7

特別支援学校部会第 1 回推進本部報告資料

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和 3 年 7 月 13 日 (木) 午後 3 時 30 分から午後 4 時 30 分まで
- (2) 方 法 Zoom によるオンライン会議
- (3) 出席者 特別支援学校部会員 7 名 全員出席

2 特別支援学校 ICT スキル習得体系表 (案)

特別支援学校においては、児童生徒の特性や障がいの程度を踏まえ、次の 3 ステップで到達目標を示す。

育成したいスキル等	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3
自分の意思を表出する。	・「快」、「不快」、「はい」、「いいえ」を、アプリや外部スイッチ等を使って伝えることができる。	・自分の持っている伝達手段に応じた方法（アプリ、AAC 機器等）で、友達や教員とやり取りをすることができる。	・自分の持っている伝達手段に応じた方法（アプリ、AAC 機器等）で、他者（学校以外の人含む）と主体的にコミュニケーションをすることができる。
簡単なアプリの操作ができる。	・アプリや支援機器を使って、（外界の認識、因果関係の理解）	・手順表を見ながら、アプリの立ち上げ、終了の操作ができる。	・自分に必要なアプリを選択し、適切に操作することができる。
文字入力ができる。	・おえかきソフトを使って描画することができる。	・指示された単語や文章を打つことができる。（時間制限なし。）	・指示された単語や文章を打つことができる。（時間制限あり。）
電子ファイルを整理して保存できる。		・電子ファイルの作成、保存ができる。	・電子ファイルをカテゴリごとにまとめ、整理、保存することができる。
タブレットを使って報告や発表ができる。	・タブレット、AAC 機器等を使って、行事や朝の会の進行をすることができる。	・タブレットを使って、報告や発表をすることができる。	・タブレットを使って、相手に分かりやすく報告や発表をすることができる。

インターネットの閲覧ができる。		<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味のある分野，また，指示された内容についての検索をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて，安全に情報収集をすることができる。
機器を適切に取り扱うことができる。		<ul style="list-style-type: none"> 機器を適切に取り扱うことができる。（準備，片付け等） 	<ul style="list-style-type: none"> 機器を適切に取り扱うことができる。（置き場所に注意する，丁寧に扱う等）
情報モラルを考慮した活動ができる。		<ol style="list-style-type: none"> ①教室でタブレットを使う時のルールを守ることができる。 ②インターネットの利便性，使用時のマナー，危険性について理解することができる。（トラブルから身を守る知識を身に付けている。） 	<ul style="list-style-type: none"> 危険な行為を判断，行動することができる。自他の立場に立って物事を公平に考え，行動することができる。
テレワークに必要なとされるジョブスキル		<ol style="list-style-type: none"> ①見本通りに文章を作成することができる。（時間制限なし） ②アンケートの集計，決められた書式へのデータ入力。（時間制限なし。） 	<ol style="list-style-type: none"> ①見本通りに文章を作成することができる。（時間制限あり。） ②アンケートの集計，決められた書式へのデータ入力。（時間制限あり。） ③文字起こし作業をすることができる。（時間制限なし。）

3 重点目標

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの日常的な利活用の推進
～みんなで「I（いつも）C（ちょっと）T（たのしい）」活用を～

4 教職員の取組例

共通項目	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の指導計画の作成にあたり、各障がい種ごとに、コンピュータ等のICTの活用に関する規定を示し、指導方法の工夫を行い、指導の効果を高める。
視覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> 視覚補助具やコンピュータ等の情報機器、触覚教材、拡大教材及び音声教材等各種教材の効果的な活用を通して、容易に情報を収集・整理し主体的な学習ができるよう工夫する。 弱視の（見えにくい）児童生徒に対して、視覚情報をその児童生徒の見やすい文字サイズやコントラストに変換する。 <ul style="list-style-type: none"> ア タブレットの表示変換機能にある、拡大機能、白黒反転機能、リフロー機能を使い、見やすい状況を作る。 イ タブレットのカメラ・拡大機能を使い、板書事項、小さいもの、動いているもの等を撮影し、手元でじっくり確認したり観察できるようにする。 盲の（見えない）児童生徒に対して、視覚情報を音声（聴覚情報）や点字（触覚情報）に変換する。 <ul style="list-style-type: none"> ア テキストデータを点字データに変換したうえで、コンピュータ等に接続した点字ディスプレイに出力し、活用する。 イ 音声読み上げソフトやアクセシビリティの設定により、コンピュータ等の文字情報を音声で読み上げさせる。
聴覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に情報を獲得しやすい教材・教具や活用方法を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器を有効に活用する。 聴覚情報（周囲の音、音声）とそれが表す意味内容などの情報を視覚化する。 電子黒板や、大型ディスプレイを利用し、児童生徒の視線が教師やモニタ等に集め、話し合い活動の円滑化を図る。 クラウドベースの文字変換アプリケーションを利用し、発話をテキスト変換し、文字をタブレット等に表示させ、授業のやりとりを視覚的に理解させる。
知的障がい	<ul style="list-style-type: none"> 障がいの状態や学習状況、経験等に応じて、教材・教具・アプリケーションや補助用具などを工夫する。 抽象的な事柄を視覚的に理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> （例）視覚的に学べるアプリケーション等を使い、抽象的な概念理解を促す。 発話による意思表示を代替するアプリケーションを利用し、発話による意思表示が困難な児童生徒がアイコンを押すことでコミュニケーションを図る。 理解が困難な事項を視覚的に理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> （例）時計を読むことが困難な場合、残り時間を視覚的に把握することができるアプリケーションを利用する。
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> 身体の動きや意思の表出の状態等に応じて、適切な補助具や補助装置を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用する。 身体機能の状態に合わせたキーボードやマウスの入力装置の代替として <ul style="list-style-type: none"> ア 画面上に表示されるスクリーンキーボード（入力支援） イ ジョイスティックやトラックボール、ボタン型のマウス（マウス操作支援） ウ 機能の一部をスイッチで支援（通常のスイッチ、音センサー、光センサー、屈曲センサー、呼気センサー） エ 支援機器を利用しやすくする固定具の利用。 オ Bluetoothで使える、キーボードやマウス、マイクやスピーカーの利用。 他者とのふれあいとして学校や地域を越えた遠隔合同学習で、協働学習を実施し、多様な考えや意見に触れ、自分の考えを確立する機会の創出。

病弱	<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動の制限や認知の特性，学習環境等に応じた教材・教具や入力支援機器等の補助用具を工夫する。 ・学校と入院中の病院をつなぎ，学習支援アプリケーションを活用した同時双方型の授業を実施する。 ・録画した授業を体調に合わせて視聴し，レポート等をタブレット端末を活用して提出させる。
----	---

5 学校の実践例

<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルやセキュリティについての指導と検討。 ・学年末に，次年度に向けた情報活用能力年間指導計画の見直し。 ・障がい種別に応じた，アプリケーション活用について月1回程度の校内研修実施。 ・特別支援学校間での効果的な情報共有システムの構築。 ・タブレットを用いた公開授業の実施。（マスコミ等を通した県民への周知） ・Zoomを利用した活用実践。（テレワークでの就業体験，キャリア教育出前授業，卒業生との進路学習，外部講師とのコンサルテーション，体育祭文化祭の校内LIVE配信）
--

6 今後のスケジュール

- ・学校計画訪問での指導・助言（9月～3月）
- ・GIGAスクールサポート事業での校内研修支援（9月～3月）
- ・Webサイトでの情報発信（9月～3月）
- ・部会での進捗状況報告・指導・支援内容の改善検討（10月）
- ・校内Mini研修の実施（活用頻度を上げるための方策として）

アイ 実施期間（令和3年9月～令和3年12月）

- ① 各学校への依頼
 ② 各学校での実践
 ③ 校内Mini研修（様式1）
 ④ 授業実践
 ⑤ 評価

ウ 事務局で取りまとめ
 校内Mini研修の例（学部会の後半10分で実施）

- ① P a n g l (計画)
 ・学習グループ・クラス等で話し合いを実施
 ・端末を準備して実際にアプリケーションを使ってみる
 ・様式1の②「見込める効果」④「使用に当たって工夫した点」について話し合いを実施
- ② D o (実施)
 ・担当授業等でアプリケーションを使った授業実践
- ③ C h e c k (確認)
 ・様式1の③「実際の効果」を報告後に協議
 ・アプリケーションの有効性について検討する
- ※ 課題や困った点も貴重な情報として扱う。

【様式Ⅰ】

校内Mini研修

アプリケーション名	※ここに，アプリ名とアイコンを入れます。 (現在準備中)
アプリケーションの概要	※アプリの概要を入力しておきます。 (現在準備中)
①学習場面 ・教科等 ・学習形態 ・場所	() 一斉学習 () 協働学習 () 個別学習 () 学校 () 自宅
②見込める効果	
③実際の効果	
④使用に当たって工夫した点	
障がい種別	() 視覚 () 聴覚 () 知的 () 肢体 () 病弱
学部	() 小学部 () 中学部 () 高等部

※各学校よりリクエストのあったアプリケーションで実践していただきます。